

大学の授業はここが違う

§ 1. 大学の授業は 90 分

大学の授業時間は、通常 90 分で、高校のほぼ倍です。授業が始まる前にカードリーダーに学生証をかざすことで出席扱いとなる科目も多く（千住キャンパスの科目および東京西キャンパスの科目の一部）、遅刻はできません。さらに、正当な理由がなく途中退出した場合、欠席扱いになることがあります。

時間に余裕を持って教室に入り、学びやすい席を確保しましょう。また、天候や交通機関の遅延に注意し、遅刻・欠席をしないようにしましょう。

§ 2. 3 分の 2 以上出席しないと試験を受けられない

授業は半期で 15 回あります。3 分の 1 以上欠席した場合は、期末試験の受験資格がなくなります（学生便覧参照）。この欠席には、病気やけがによる欠席も含まれます。忌引、インフルエンザなどの出校停止の場合は、担当の先生に相談してください。

基本的に 15 回全部出席するように心がけましょう。

§ 3. 予習復習も単位に含まれる

大学では、教室での授業だけでなく、予習・復習を合わせて単位を授与することを前提としています。大学の単位制度では、講義科目については 90 分の授業時間と 90 分の予習・復習を基準としています。必ず予習・復習をして授業に臨みましょう。予習をしておくことで授業内容がよくわかり、復習で理解が深まります。

§ 4. 卒業には 124 ～ 130 単位の取得が必要

大学では、講義・演習・実習・実験などがあり、単位数が異なります。卒業に必要な単位は学部・学科によってそれぞれ定められていますが、124 単位から 130 単位です。本学は 2 学期制（前期 15 週、後期 15 週）なので、週 5 日間、毎日 4 科目を履修すると、1 年間で最大で 40 単位取得できます。

各学科の履修モデルを元に、無理のない履修計画を立てましょう。

§ 5. 60点以上が合格（単位認定）

大学では、授業を受け、試験で60点以上を取らないと単位は認められません。授業中に小テストやレポートが課され、それが成績に含まれることもあります。出席しているだけでは単位は認められません。また、科目によって評価の方法が異なります。必須科目が不合格になった場合は、再履修をしなくてはなりません。授業には必ず出席し、真剣に取り組みましょう。

§ 6. 授業の時間割は自分で作る

大学では、必ず取らなくてはならない「必修科目」と自分で選択できる「選択科目」があります。資格取得に必要な科目もありますので、各学科の時間割と学生便覧を見ながら、一日3～4科目を目安に時間割を作成しましょう。履修科目が多すぎると、予習・復習の時間が取れなくなるので、注意しましょう。

教員にアドバイスをもらって、時間割を作成しましょう。

§ 7. シラバスを読んで、履修する授業を決めること

本学では、各科目の担当教員、授業目的、到達目標、授業内容、授業の進め方、教科書、成績評価方法などが書かれた「シラバス」をウェブサイトで公開しています。授業を履修する前に必ず読み、授業初日に出席し、説明を聴き、その科目を履修するかどうかを決めましょう。

履修登録や変更も期間内にウェブ上で行うことに注意しましょう。

§ 8. 決まった教科書はない

大学では、高校までとは異なり、各科目の担当教員が独自で教科書を選び、指定します。教科書をたどるだけでなく、教科書から離れて配布資料や板書、スライドを用いて説明することもあります。また、教科書を使わない先生もいます。説明をよく聴きノートを取らないと、授業が理解できなくなることもあります。授業に集中し、ノートを取る習慣をつけましょう。

§ 9. クラスは授業ごとに変わる

大学では、高校までのように決まった学級や教室、ホームルームはありません。授業は科目の受講者数や授業方法に応じた教室で行うため、履修する学生もクラスによって異なります。いろいろな教員の授業の進め方に慣れ、クラスメートとも交流を深めていきましょう。